第 ４ 回

小樽港長期構想検討委員会･幹事会

資　料 － ３

小樽港長期構想（案）【概要版】

令和2年11月20日

小　樽　市

小樽港長期構想（案）【概要版】1/9

令和2年11月
小　樽　市

➢ 小樽港の目指すべき姿

将来像　「ひと･ものが世界と行き交う北海道日本海側の物流･交流拠点　小樽港」

基本理念　フェリーを核とした物流機能の強化やクルーズ振興などによる賑わいの創出により、ひと･ものが世界と行き交う北海道日本海側の物流･交流拠点港としての発展を目指す。

物流･産業

地域産業を支える穀物船と穀物サイロ

対岸貿易を支えるロシア船とコンテナ船

水産業を支える漁船

日本海側の物流を支えるフェリー

観光･交流

賑わいを創出するクルーズ船

マリンレジャーを牽引するマリーナ

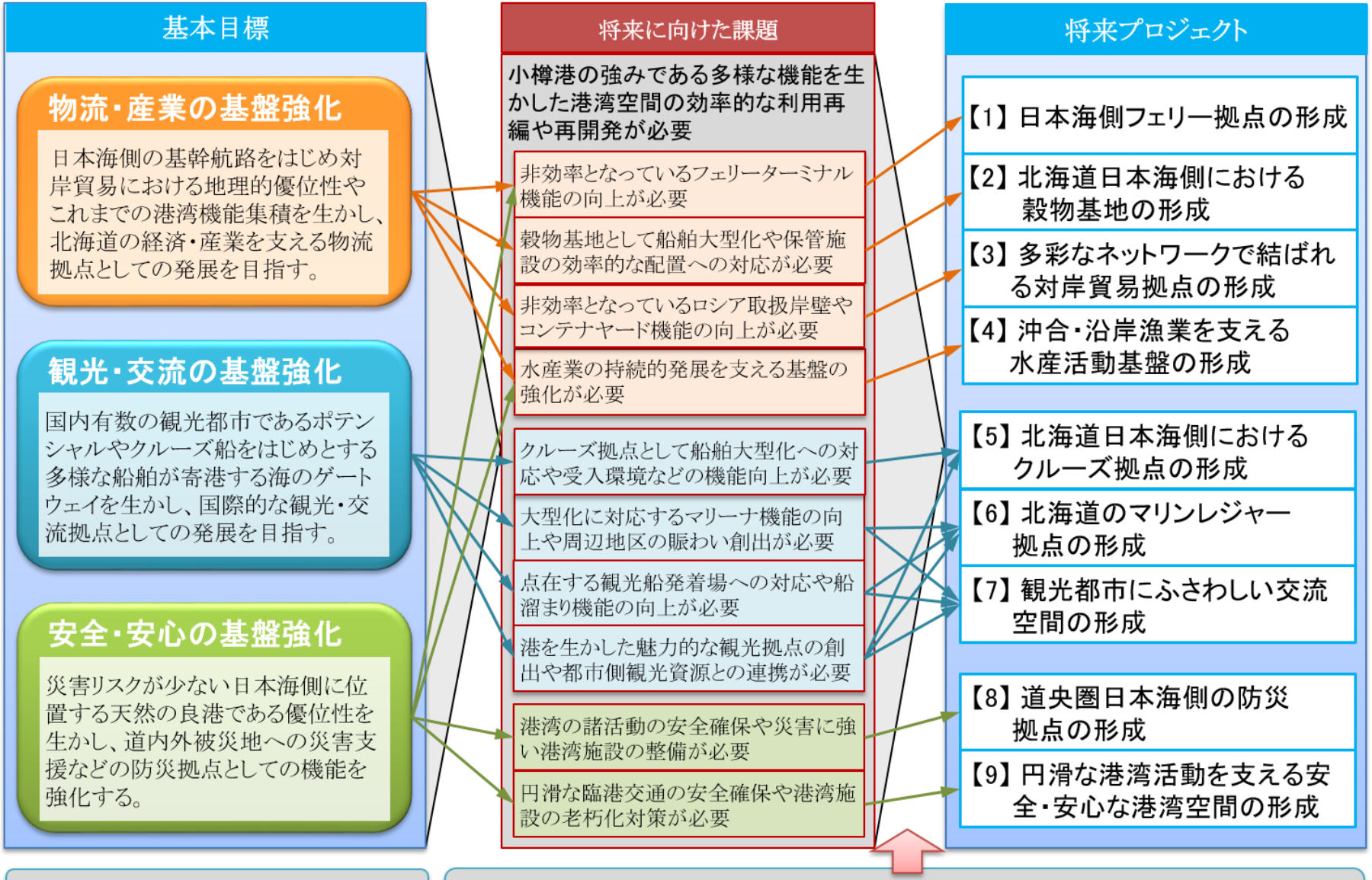
海上観光を支える観光船

小樽観光を支える運河

小樽港長期構想（案）【概要版】2/9

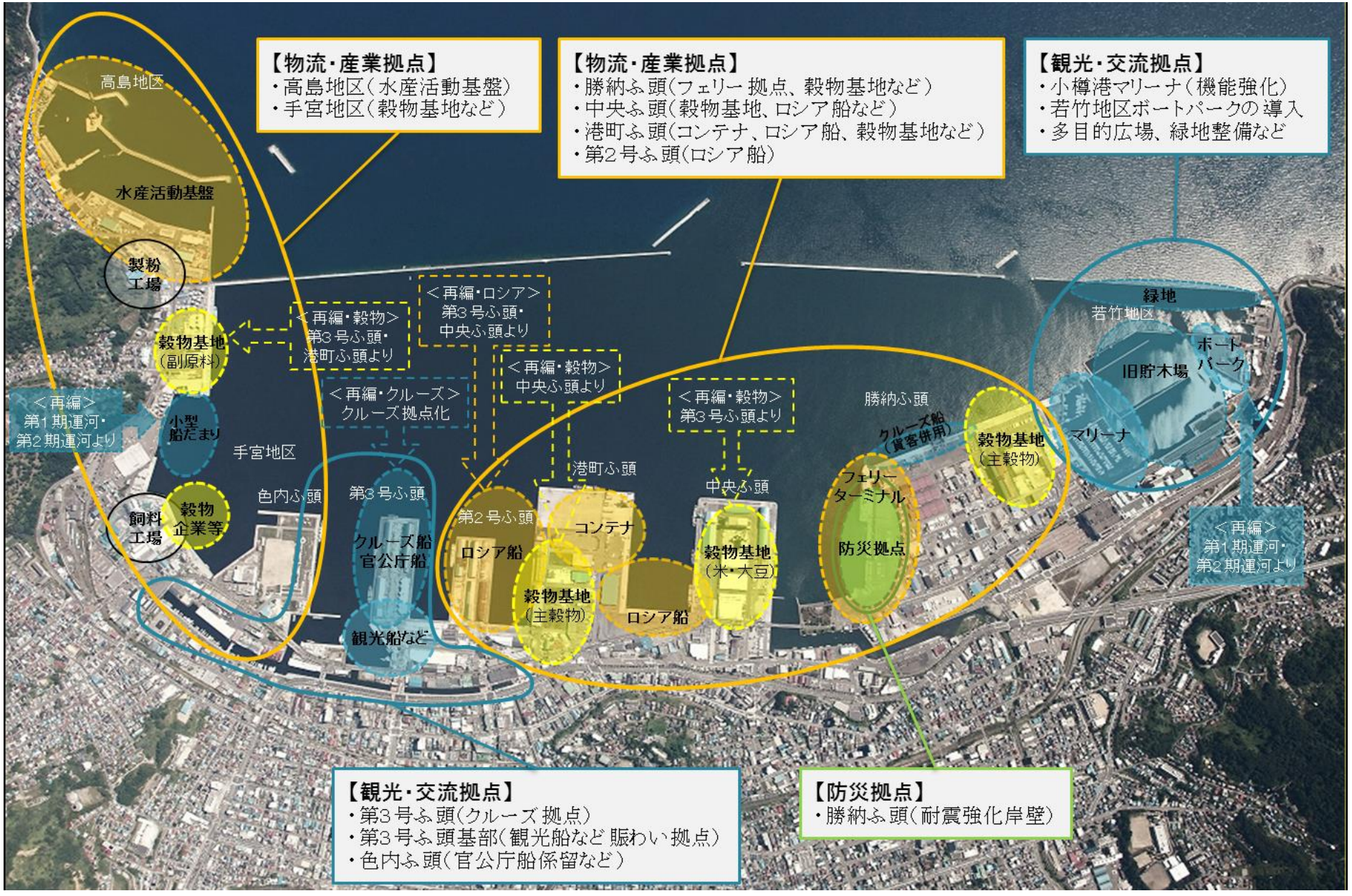
令和2年11月
小　樽　市

➢ 小樽港の基本目標と将来プロジェクト



小樽港長期構想（案）【概要版】3/9

➢ 小樽港が目指す効率的なふ頭再編・利用再編イメージ



小樽港長期構想（案）【概要版】4/9

令和2年11月
小　樽　市

➢ 将来プロジェクト：物流・産業の基盤強化

【1】日本海側フェリー拠点の形成
～日本海側の基幹航路として国内の産業･経済を支えるフェリー拠点としての機能強化～

【目指すべき姿】

北海道と本州を結ぶ日本海側の基幹航路として、大規模災害時においても航路の持続性を確保し、太平洋側被災時のリダンダンシー機能を備え、国内の産業・経済を支える日本海側フェリー拠点としての発展を目指す。

【実現に向けた課題】

- ◆シャーシ置場がフェリーターミナルから離れており、非効率となっている。
- ◆災害に強い港湾機能の構築のため、耐震強化岸壁が必要となっている。
- ◆歩道が狭いなど安全な歩行導線の確保が必要である。
- ◆人口減少による労働者不足が懸念される。

【施策のイメージ】

施策のイメージ	短･中期	長 期
フェリーターミナル機能の集約	■	
耐震強化岸壁の整備	■	■
安全で快適な歩行導線の確保	■	
労働者不足を補う新技術導入及び設備導入に対応する荷捌き地の拡張		■
トラック等の自動運転に対応する交通施設整備		■

【2】北海道日本海側における穀物基地の形成
～北海道の食品産業･畜産業を支える穀物原料輸入基地としての機能強化～

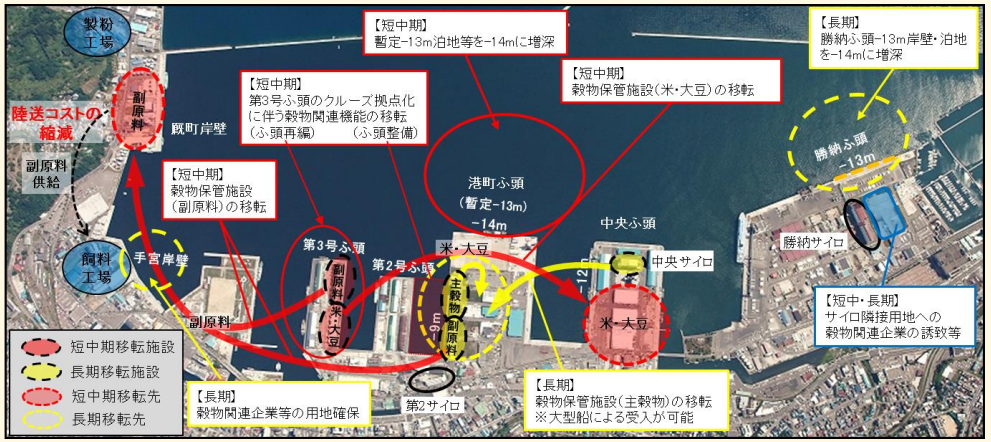
【目指すべき姿】

国際バルク戦略港湾をはじめとする道内他港との機能分担を図りつつ、道央圏に位置する災害リスクの少ない日本海側の優位性を生かし、北海道の食品産業や畜産業を支える穀物供給拠点、また、大規模災害時の穀物備蓄基地としての発展を目指す。

【実現に向けた課題】

- ◆近年、小樽港に入港する穀物船も大型化しており、最大で8万載貨重量トン(DWT)を超える船型となっているが、水深不足により満載での入港ができないため、積載量を減らした喫水調整を行い、非効率な状態となっている。
- ◆小樽港は北海道日本海側の穀物基地として、古くから穀物の取扱いが行われており、段階的なふ頭拡張に伴い取扱岸壁や保管施設が分散しており、荷役作業が非効率になっている。

【施策のイメージ】



施策のイメージ	短･中期	長 期
港町ふ頭-14m岸壁前面の暫定で供用している-13m泊地等を大型船舶に対応する-14mに増深	■	
穀物保管施設（副原料、米、大豆）の第３号ふ頭のクルーズ拠点化に伴う移転	■	
勝納ふ頭-13m岸壁･泊地を大型船舶に対応する-14m岸壁･泊地に増深		■
手宮岸壁前面の穀物関連企業等の用地確保		■
穀物保管施設（主穀物）の移転	■	■
«ソフト施策» 勝納サイロ隣接用地への穀物関連企業の誘致等	■	■

小樽港長期構想（案）【概要版】5/9

➢ 将来プロジェクト：物流・産業の基盤強化

【3】多彩なネットワークで結ばれる対岸貿易拠点の形成
～北海道の産業、消費活動を支える対岸諸国との貿易ネットワークの機能強化～

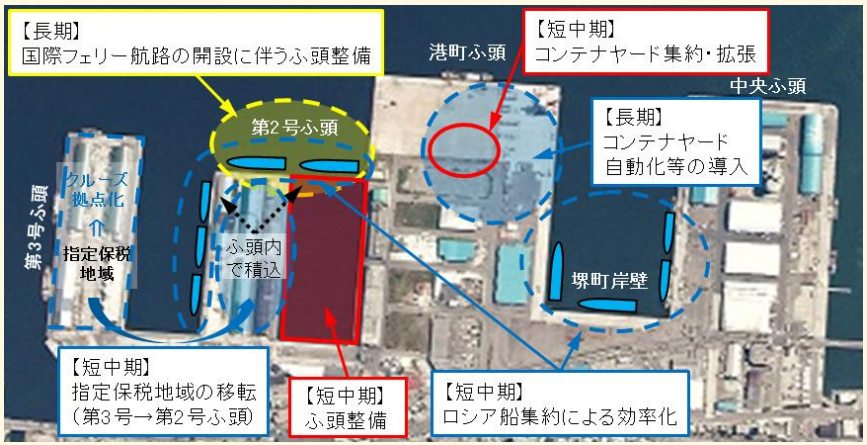
【目指すべき姿】

既存定期航路の充実を図るとともに、新規航路や他の日本海側港湾の航路と連携したトランシップを活用した輸送ルートの構築などにより、対岸諸国との貿易ネットワーク網を構築し、対岸貿易の拠点としての発展を目指す。

【実現に向けた課題】

◆<対ロシア>第３号ふ頭から中央ふ頭にかけて岸壁の利用が分散されている。
◆<対中国> コンテナ置場が分散しており、荷役作業が非効率となっている。
◆第３号ふ頭のクルーズ拠点化に伴うふ頭用地の確保が必要となっている。

【施策のイメージ】



施策のイメージ	短･中期	長 期
ふ頭整備（第３号ふ頭クルーズ拠点化に伴う再編、老朽化岸壁の廃止、ヤードの拡張）	■	
コンテナヤードの集約･拡張	■	
国際フェリー航路（対岸）開設に伴うふ頭整備		■
«ソフト施策» 指定保税地域の移転	■	
«ソフト施策» ロシア船集約による効率化	■	
«ソフト施策» シベリア鉄道などを利用した貿易ルートの構築	■	■
«ソフト施策» （仮称）ロシア貿易センター導入への取組		■
«ソフト施策» AI技術を活用した自動化等の導入		■

【4】沖合･沿岸漁業を支える水産活動基盤の形成
～地元漁船や管外船などの活動を支える水産支援機能の強化～

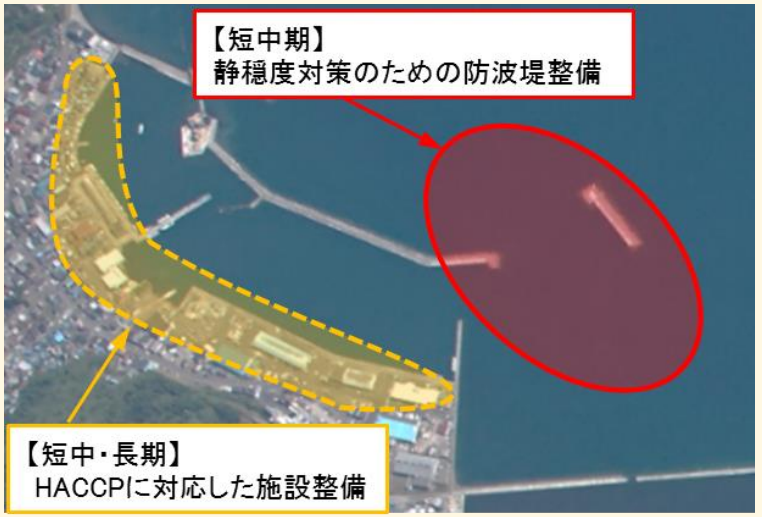
【目指すべき姿】

地元漁船や管外船などの活動を支える水産支援機能の強化を図ることにより、水産物の安定供給や「地魚や水産加工品」の付加価値向上などに貢献し、水産業の持続的な発展を目指す。

【実現に向けた課題】

◆高島地区は、荒天時に静穏度が確保されていないため、地元沖合漁業の漁船や管外からのイカ釣り漁船などは、中央地区へ避難し係留している。
◆漁業規制の強化や海洋環境の変化などの影響で漁獲量は減少傾向であるが、更なる水産物の安定供給を図る必要がある。
◆水産加工業では、漁獲量の減少による原料価格の高騰など厳しい経営環境となっている。

【施策のイメージ】



施策のイメージ	短･中期	長 期
静穏度対策のための防波堤整備	■	
HACCPに対応した施設整備	■	■
«ソフト施策» つくり育てる漁業の推進との連携	■	■
«ソフト施策» 地元水産加工品のブランド化の推進や販路拡大との連携	■	■

小樽港長期構想（案）【概要版】6/9

令和2年11月
小　樽　市

➢ 将来プロジェクト：観光・交流の基盤強化

【5】北海道日本海側におけるクルーズ拠点の形成
～我が国のインバウンド増大･クルーズ人口拡大に貢献するクルーズ拠点としての機能強化～

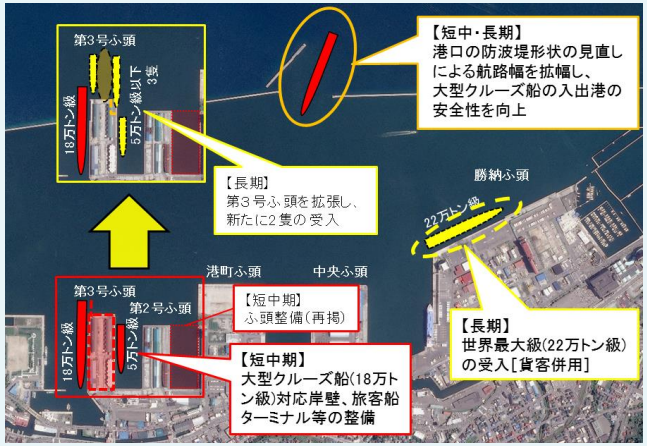
【目指すべき姿】

背後圏の豊富な観光資源を生かした寄港地として、また、利便性が高い交通ネットワークを生かした定点クルーズ発着港やターンアラウンド港として、様々なクルーズを受入れる日本海側北部のクルーズ拠点としての発展を目指す。

【実現に向けた課題】

◆現状で受入可能としている13万トン級を超えるクルーズ船の寄港打診が外国船社から数多く寄せられており、大型化への対応が急務となっている。
◆2隻及び3隻同時の寄港打診や中心市街地及び小樽運河に近い第３号ふ頭への寄港打診が多く寄せられており、効率的な対応が課題となっている。
◆クルーズターミナル機能が未整備であり、CIQ審査による乗下船手続きの長時間化や物流機能との輻輳、岸壁背後が狭いことによるバス駐車場の確保や歓送迎行事のスペース確保が課題となっている。

【施策のイメージ】



短　中　期	
最大受入船型	● 18万トン級
同時受入隻数（最大船型）	● 3隻同時受入 ・18万トン級：第3号ふ頭 ・13万トン級：勝納ふ頭 ・ 5万トン級 ：第3号ふ頭
長　　期	
最大受入船型	● 22万トン級(世界最大級の船舶)
同時受入隻数（最大船型）	● 5隻同時受入 ・22万トン級　　：勝納ふ頭 ・18万トン級　　：第3号ふ頭 ・ 5万トン級以下×3隻 ：第3号ふ頭

第3号ふ頭及び周辺地区の将来イメージ【長期】

施策のイメージ	短･中期	長 期
大型クルーズ船（18万トン級）対応岸壁、旅客船ターミナル等の整備 <第3号ふ頭>	■	
大型クルーズ船（18万トン級）対応のための港口の防波堤改良	■	
大型クルーズ船（22万トン級） に対応した岸壁整備 <勝納ふ頭>、港口の防波堤改良		■
5隻同時に受入を可能とするふ頭整備 <第3号ふ頭>		■
«ソフト施策» クルーズ船誘致のための取組	■	■

【6】北海道のマリンレジャー拠点の形成
～北海道のマリンレジャーを牽引するプレジャーボート拠点としての機能強化～

【目指すべき姿】

小樽港周辺に広がるニセコ積丹小樽海岸国定公園の良好な景観や、遊漁を楽しむ豊かな環境、北海道の人口が集中している札幌市近郊との交通アクセスの利便性、港周辺の観光･商業施設との連携可能な立地特性を生かし、多様なニーズに対応するマリンレジャー拠点としての発展を目指す。

【実現に向けた課題】

◆マリーナの保管能力は、計画上で300隻（海上：200隻、陸上：100隻）となっているが、近年、ボートやヨットの大型化により"くし型"の係留施設に2隻係留できなくなっており、計画上の隻数を確保できない状況となっている。
◆第１期運河は係留隻数を確保するため、船舶を直角に係留しており、運河の水路幅員が狭くなっている。
◆第２期運河の利用船舶と貨物船等との航行の輻輳を解消し、航行の安全性を確保するため、代替となる船だまり機能が必要となっている。

【施策のイメージ】

施策のイメージ	短･中期	長 期
船舶大型化やスーパーヨットに対応するマリーナ機能の強化	■	
小型船だまり（手宮地区）の整備及びボートパーク（若竹地区）の導入による船だまりの再編	■	
«ソフト施策» 船舶航行の輻輳に対する安全管理体制の構築	■	
«ソフト施策» 係留方法の変更等による水路幅員の確保（第1期運河）	■	

小樽港長期構想（案）【概要版】7/9

令和2年11月
小　樽　市

➢ 将来プロジェクト：観光・交流の基盤強化

【7】観光都市にふさわしい交流空間の形成
～海の魅力や歴史を生かした国際観光･交流拠点としての機能強化～

【目指すべき姿】　第３号ふ頭及び周辺地区とマリーナ･若竹旧貯木場周辺地区に賑わい空間の拠点を形成するとともに、小樽港周辺の観光拠点との回遊性を高め、滞在型観光の促進による地域の活性化や、国際的なみなと観光拠点としての発展を目指す。

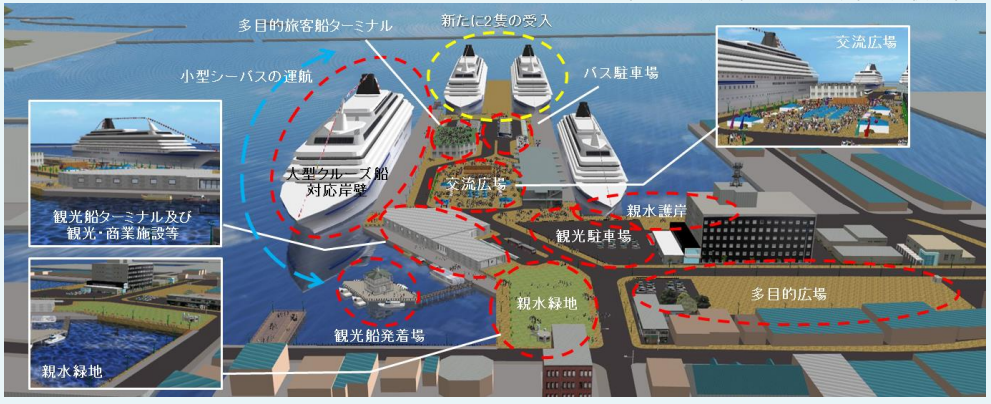
【実現に向けた課題】
◆都市側には多くの観光･商業施設があるが、港側は「みなと観光づくり」の面では、そのポテンシャルを生かしきれていない状況にあり、滞在型観光に向けた取組みとして、交流拠点の充実や港湾ならではの新たな観光資源の創出、また、これら港側の交流空間と都市側の観光資源との回遊性の向上を図る必要がある。
◆多くの観光船が運航されているが、発着場所が分散しているため、発着場所の集約など利用者への利便性の向上を図る必要がある。
◆多くの練習船等が寄港しているが、係留場所が分散しており、これらの船舶を景観資源として有効に活用できていない。

【施策のイメージ】広域的な施策の展開

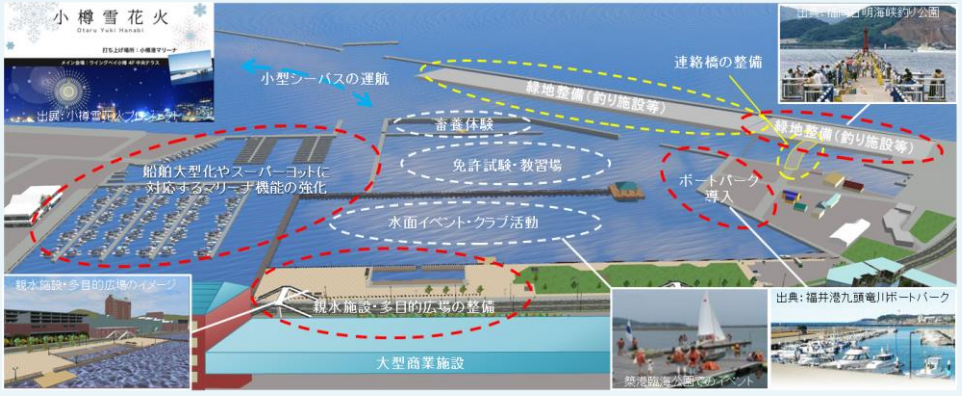
施策のイメージ	短･中期	長 期
『第３号ふ頭及び周辺地区』のみなと観光の拠点となる機能の整備（観光船発着機能の強化･集約化など）　下図①参照	■	
『マリーナ･若竹旧貯木場周辺地区』のみなと観光の拠点となる機能整備（親水施設･多目的広場の整備など）　下図②参照	■	
安全で快適な歩行導線の確保（再掲）	■	
歴史的港湾施設を活用した緑地整備（釣り施設等）	■	■
«ソフト施策» 『第３号ふ頭及び周辺地区』のみなと観光の拠点となる施策（練習船等の景観資源としての活用など）　下図①参照	■	
«ソフト施策» 『マリーナ･若竹旧貯木場周辺地区』のみなと観光の拠点となる施策（水面や緑地を利用したイベントの開催など）　下図②参照	■	
小型シーバスの運航による回遊性の向上	■	■
歴史的港湾施設を活用したインフラツーリズム	■	■

図①　第３号ふ頭及び周辺地区の将来イメージ

※ 第３号ふ頭基部については、現在別途検討中



図②　マリーナ･若竹旧貯木場周辺地区の将来イメージ



小樽港長期構想（案）【概要版】8/9

令和2年11月
小　樽　市

➢ 将来プロジェクト：安全・安心の基盤強化

【8】道央圏日本海側の防災拠点の形成
～災害から産業･くらしを守る防災拠点としての機能強化～

【目指すべき姿】

道内被災時において、道内の住民生活や経済活動を継続的に確保・発揮するための物資の受入や本州が被災した場合の被災地救援の輸送など、緊急物資輸送拠点の形成を図るとともに、安全・安心に利用できる港湾機能の充実・強化を図り、道央圏日本海側の防災拠点を目指す。

【実現に向けた課題】

◆災害に強い港湾機能の構築のため、耐震強化岸壁の整備が必要となっている。
◆港内の荒天時における波浪の低減を図るため、防波堤の整備が必要となっている。

【施策のイメージ】

施策のイメージ	短･中期	長 期
耐震強化岸壁の整備（再掲）	■	■
防波堤の整備	■	
«ソフト施策» 「小樽港港湾BCP」及び「道央圏港湾BCP」に基づく防災・減災の取組、他港との連携	■	■
«ソフト施策» 太平洋側被災時における、石狩湾新港と連携した物流機能の補完	■	■

【9】円滑な港湾活動を支える安全･安心な港湾空間の形成
～物流活動や交流活動を円滑で安全･安心に支える港湾空間の機能強化～

【目指すべき姿】

物流・産業活動や観光・交流活動などの港湾活動を支えるため、港湾機能の充実・強化を図り、安全・安心に利用できる港湾空間の構築を目指す。

【実現に向けた課題】

◆老朽化施設が増大しており、老朽化対策と機能強化を併せた整備を行うなど、戦略的な施設の更新が必要となっている。
◆物流･交流機能強化のため、小樽港縦貫線における必要な車線数の確保や歩行空間の安全確保など交通機能の向上が必要となっている。

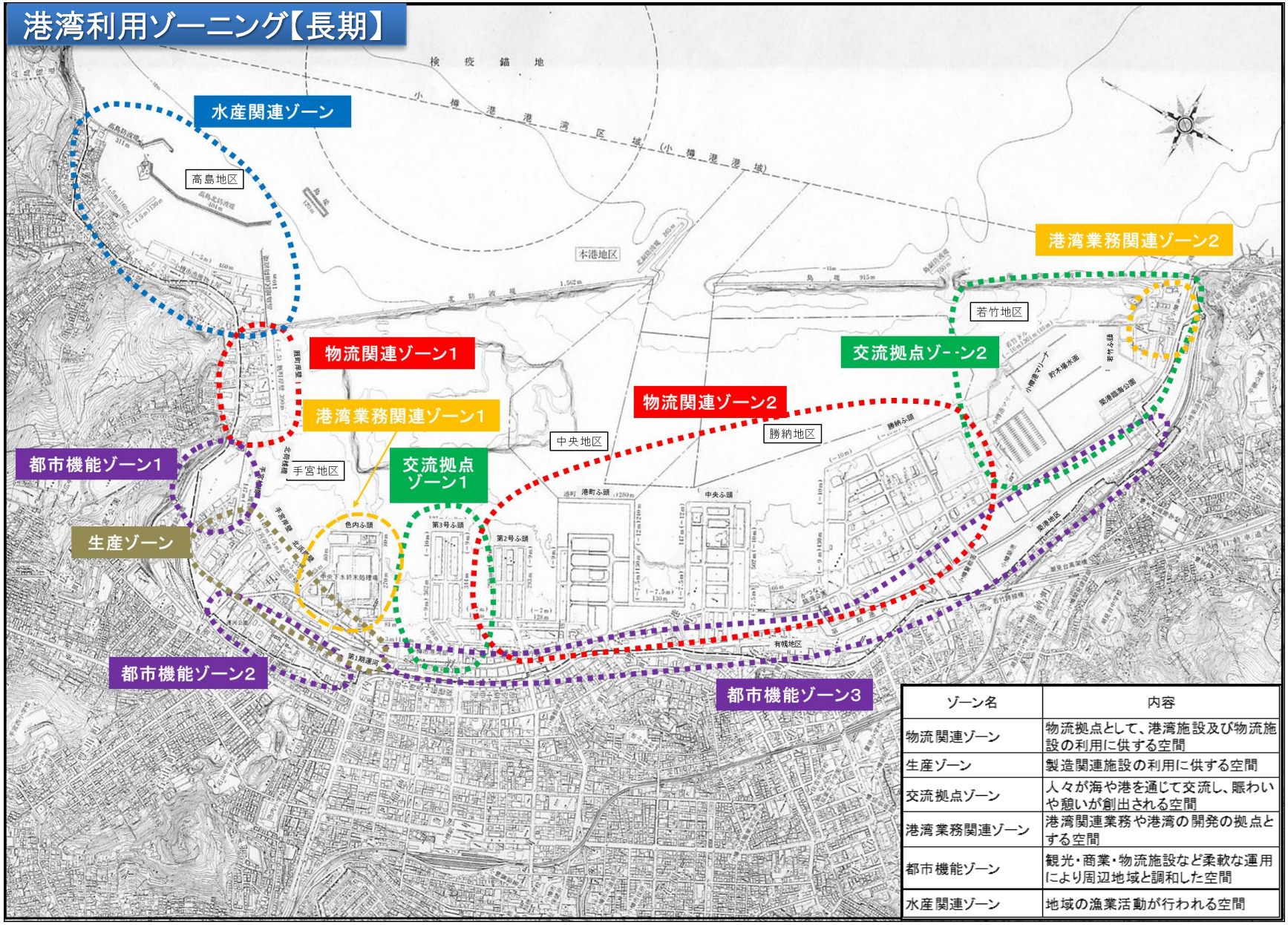
【施策のイメージ】

施策のイメージ	短･中期	長 期
小樽港縦貫線における必要車線数及び歩道幅員の確保、道道とのアクセス性向上等	■	
港湾施設全般の老朽化対策	■	■
«ソフト施策» 適切な維持管理計画の更新、点検	■	■
«ソフト施策» ICTなどを活用した維持管理の効率化	■	■

小樽港長期構想（案）【概要版】9/9

令和2年11月
小　樽　市

➢ 空間利用計画



ゾーン名	内容
物流関連ゾーン	物流拠点として、港湾施設及び物流施設の利用に供する空間
生産ゾーン	製造関連施設の利用に供する空間
交流拠点ゾーン	人々が海や港を通じて交流し、賑わいや憩いが創出される空間
港湾業務関連ゾーン	港湾関連業務や港湾の開発の拠点とする空間
都市機能ゾーン	観光・商業・物流施設など柔軟な運用により周辺地域と調和した空間
水産関連ゾーン	地域の漁業活動が行われる空間